



牧水歌碑に献酒する飯干会長



朗詠する塩月相談役

郷土の歌人 牧水をしのぶ 3/14 顕彰会が第88回歌碑祭

延岡市城山公園

郷土の歌人、若山牧水をしのぶ第88回牧水歌碑祭が13日、延岡市の城山公園内の牧水歌碑前広場で行われた。延岡市若山牧水顕彰会（飯干喬啓会長）の役員、関係者約20人が出席。新型コロナウイルス

イルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して開催した。正午を知らせる鐘の音に合わせて、同顕彰会の塩月眞相談役が「なつかしき城山の鐘鳴りいでぬをさなかりし日聞きしこ

とくに」と朗詠。飯干会長は牧水がこよなく愛した酒を歌碑にささげた。また、牧水歌碑の両脇に立つ門下の谷自路の歌碑の前で菓子供えて黙礼、越智深水の歌碑には献酒をして遺徳をたたえた。最後に参列者が一人ずつ3人の歌碑に向かって、黙礼と献酒をした。あいさつに立った飯干会長は、牧水が話題になることが少なくなっている現状から「顕彰会の仕事」が非常に大事になってくる。戦時中の混乱期でも続けてきた先人たちの

魂を受け継ぎ、顕彰活動に励みたい」と話した。歌碑は、牧水の7回忌に建立を企画。弟子の越智深水、谷自路、初代市長の仲田又次郎らが「牧水歌碑建設会」を組織し、1935年3月21日に全国で3番目の牧水歌碑として建立された。全国に300を超える牧水歌碑の中には、「歌碑祭」碑前祭」を行っている場所がいくつかあるが、毎年3月に開催している延岡の「牧水歌碑祭」は戦時中も途絶えることなく最も古い。